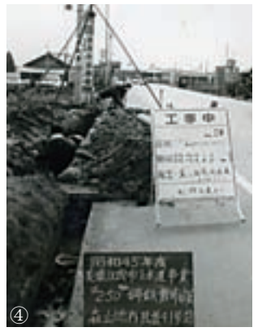

①昭和33年に造られ、50年間水を供給してきた旧森山浄水場

②平成13年５月まで供用されていた旧森山配水池から飛騨川を望む。この配水タンクに水が貯められ、ここから太田地区・古井地区へ送られていました

③沈殿池増設工事（昭和42年完成）。その沈殿池のコンクリート打設作業

④昭和45年、国道41号（森山４丁目地内）に配水管を布設

安心・安全な、わたしたちの水道水

市の水道水は、飛騨川を水源とする森山浄水場と岩屋ダム（下呂市）を水源とする県営山之上浄水場の２カ所から、市民約５万５千人の生活用水として供給しています。

昭和33年の森山浄水場の使用開始時には、計画給水人口１万５千５百人で始まり、その後、高度経済成長や人口増加に伴い、水の需要も増加し、昭和51年に県営水道が使用開始されました。

市の年間総給水量は、約５６４万トン（ナゴヤドーム約３杯強）。そのうち森山浄水場では、約３分の１を賄い、残り３分の２は岩屋ダムを水源とする県営水道から供給しているのが現状です。岩屋ダムの水位が下がると節水をお願いする理由はここにあります。

森山浄水場は、昭和33年に造られ、昭和42年に沈殿池などを増設。給水を開始して以来50年間、一日も休まず皆さんに水を供給し続けてきました。しかし、既存の建物は老朽化が著しく、耐震化する必要も生じ、より安心・安全な水道水を安定供給するため、浄水場の新築事業が計画されました。

▲昭和52年３月に完成した、下呂市金山町にある岩屋ダム

水道事業50年のあゆみ

昭和33年	5月　森山浄水場完成
	10月　運用開始
昭和42年	3月　浄水場施設増設
	水道普及率46・2％
昭和50年～51年	上野・佐口・中之番配水池がそれぞれ完成
昭和51年	12月　県木曽川右岸用水供用開始
	水道普及率61・1％
昭和61年	3月　水道普及率96・8％
平成6年	4月　三和地区供用開始
	水道普及率99・1％
平成17年	6月　新森山浄水場着工
	水道普及率99・2％

特集

水道事業が始まって50年 いつまでも安全な水を

今年の４月に森山浄水場が新しくなり、その通水式を行いました。

市民の皆さんに新しい浄水場の概要を紹介するとともに、安心・安全な水について知っていただきたいと思います。

ぜひ、この機会に水道について考えてみましょう。

写真：森山浄水場内の膜ろ過処理装置